

教学半也

教えるは 学ぶの 半ばなり

第 3 号 8 月 2 2 日 (火)

仙丈ヶ岳(南アルプス)

目次

- 1 授業の質的向上を目指して …P1~3
- 2 「特別の教科 道徳」の実施に向けて …P4
- 3 体力の向上に向けて …P5・6
- 4 加キラム・マゼジメントへのはじめの一步 …P7
- 5 研修会報告 …P8

1 授業の質的向上を目指して

国語 言葉を吟味し、語感を磨く授業 「中2 身近な言葉の使い分けを考えよう」

学習活動・教師の支援

学習問題 類義語「勉強」と「学習」を日常ではどのように使い分けしているか。

学習課題 例文についてイメージの違いを考え、使い分けの基準をはっきりさせよう。

(個人追究→ペア学習→タブレットで情報共有→全体への提示→自分のペアの基準と比較検討させる。)

ペア1
「勉強」…教えてもらう
「学習」…新しいことを学ぶ

ペア2
「勉強」…個人で勉強する
「学習」…人に教えてもらう

情報共有アプリを使って気付いたことを出し合い、出された意見・考えを基に、個人で基準を再検討する。

学習問題がどのような追究を通して解決したのか、まとめる。

一般化の問題「美しい・きれいだ」の使い分けの基準を考える。

生徒の意識・姿

・これまでの学習を想起し、問題解決への見通しをもつ。
生徒「例文を基に使い分けを考える。」
生徒「場面を思い出すと違いがありそう。」

Aさんの最初の基準
「勉強」…習ったことを復習する感じ。
「学習」…新しいことを学ぶ感じ。

Aさん『「勉強」は「復習する」と思ったけど、イメージが違う。』
Bさん『「テスト勉強」という例文で『「テスト学習」とは言わないから、ペア2のように自分で調べたりするのが『「勉強」かも。人がいるかないか、かなあ。』
Aさん「そうか！」

Aさんの比較検討後の基準
「勉強」…個人で学ぶ。
「学習」…みんなで新しいことを学ぶ。

振り返り Aさん「友達の意見が参考になって自分の基準がまとめられた。例文から違いを考えると『勉強』と『学習』の使い分けがわかりやすかった。これからは、表す意味や用法に注意して言葉を使いたい。」

“3観点の質的向上を目指したS先生の工夫”

- 1 「ねらいを明確に」 ・既習から追究方法を生徒と共に明確にし、学習課題を設定しています。
- 2 「めりはりをつけて」 (1) 各ペアの考えを全体に提示する際に、互いの考えを比較させ、共通点や相違点を明確にしたり関連付けたりしています。
(2) 学習形態(個人→ペア→全体→個人)を工夫しています。
(3) 考えを共有・可視化する工夫としてICTを活用しています。
- 3 「見とどけ」 ・ねらいに沿った一般化の問題に取り組んだり、本時の学びを自覚できるように学習問題や学習課題に対して振り返ったりしています。

数学 意図のある言語活動が学習に深まりを生む 「中1 文字の式」

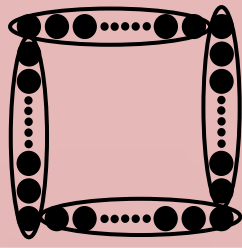
【学習問題】

基石で正方形をつくるとき、基石を1辺にn個並べると、基石は全部で何個必要でしょうか。

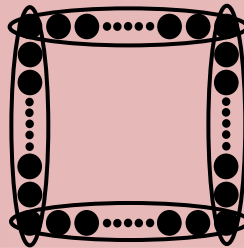
意図していることは

図と式で自分の数え方を表現し、考え方は違ってもどれも同じ式になることに気付く

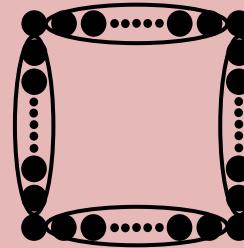
例えば右のような囲み方では。



$$4(n-1) \text{ (個)}$$



$$4n-4 \text{ (個)}$$

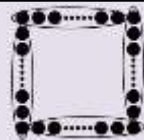


$$4(n-2)+4 \text{ (個)}$$

生徒

教師

こうやって囲むと、1辺の基石の数が(n-1)個。これが4辺分あるので4倍だから(n-1)×4で、4(n-1)です。

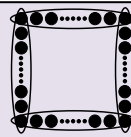


グループで、自分が考えた囲み方と式の意味を友だちに説明しよう！
自分の求め方と比較しながら聞こう。

なるほど！n-1の意味が図の囲み方でよくわかった。私は1辺の基石の数をnのまま数えたよ。



1辺n個で、これが4辺分あるので4倍でn×4。でも重なりがあるから4個ひいてn×4-4で、4n-4です。



余計に数えてるからひいたんだね。

4角を除くと1辺(n-2)個。これが4辺分あるので4倍で(n-2)×4。そこに除いた4個分をたして4(n-2)+4。



考え方で違う点や共通している点も考えて伝え合ってみよう。

考え方や囲み方は違うけど、1辺分を4倍している点は同じだ。どの数え方をしても基石全部の数は同じだから、式を計算すると全部4n-4になって、同じ式になるんだ。



言語活動の教師の指導

○毎日の授業で意図をもって言語活動を位置付けましょう。

○そのために生徒に自分の考えを表現するポイントや視点を伝えましょう。

英語 「自分の考え」を書くことに苦手意識のある生徒が
主体的に「書く」ことへ取り組むために

①言語活動の目的を明確に

英語で自分の考えを書くなんで無理だよ…



◇New Zealand の生徒来校の機会に合わせ、Lesson Goal 「New Zealand の友達に日本を紹介するポスターを作ろう！」を設定。

○生徒たちは、「だれに」「何を」伝えるか明確であるため、見通しをもって活動に取り組める。

②情報の整理(Mind-Map の活用)

何を書けばいいのかわからない



◇Mind-Map 作成で「書きたいこと」のアイデアを書きだす。

○グループで行うとより多くのアイデアを共有できる。

○考えをもつことが苦手な生徒には、書くための情報の整理・選択ができる。

○Mind-Map の形が、「概要→具体」というスピーチの形になっているため、書く順番を整理することができる。

③Mind-Map から英文にするためのステップ

どう書けばいいのかな…



◇既習表現のワークシートから参考にできそうな英文を選択する。

◇Mind-Map に選択した英文の番号を記入する。

○苦手な生徒にとって、支援になるとともに考える活動になっている。

④友だちの作品から学ぶ

○自分の作品と見比べ、文法的な間違いに気づき、直すことができる。

○自分の作品にはなかった文や内容を付け足すことができる。

「自分の考え」を主体的に自信をもって取り組めるようにするためには、①writing の目的を明確にする、②情報の整理をする、③英文で表現するため方法を学ばせる、④個→全体→個の再構築の場面を設定するなど生徒の困り感に沿って活動を設定していくことが大切です。また、各校で作成した「CAN-DO リスト」を活用して「自分の考え」を書く言語活動を計画的に設定していくことも必要です。

今回作成した Mind-Map を使って即興のスピーチをしたり、作成したポスターを使ってプレゼンをしたり、他領域と絡めて言語活動を充実させることもできそうです。

2 「特別の教科 道徳」の実施に向けて

動作化や対話活動を取り入れて、授業の質を高める

「どちらの立場でもあやまれる人になりたい…」

美篤小学校6年生 教材「ぼくの友だち」(わたしたちの道6 信州教育出版社)

【内容項目】相互理解, 寛容 【ねらい】自分以外の相手の立場に立って気持ちを考える大切さに気付く

【あらすじ】大切なキーホルダーを年夫に壊されてしまった一郎。謝る年夫を許すことができずに家に帰った一郎だが、そのことが頭から離れない。数日後、年夫の転校を知らされ、年夫からのお詫びの手紙と手作りキーホルダーを受け取った一郎は、手紙を読み、キーホルダーをギュッとにぎりしめた。

「一郎さんはどんなことで頭の中がごちゃごちゃしているのだろう。」

この問いにAさんは「ポケットに入れていたのは悪いけど、気に入ったものなら誰でも身に付けるはず。(一郎は自分が)悪いのか、悪くないのかわからないからごちゃごちゃしている。」と書きました。先生の指示で、年夫からのお詫びの手紙を黙読し、キーホルダーの代わりに机上の消しゴムを手にとってギュッと握ってみたAさんは手紙を読んだ時の一郎の気持ちについて班の仲間と意見を交流しました。

Bさん：なんであんなに年夫さんに文句を言っちゃったんだろう。

Aさん：年夫さんもぼくと同じような気持ちだったんだ。ぼくは謝れなくて情けないと思った。

Cさん：あの時、ぼくも文句を言いすぎてごめんね。手作りで作ったキーホルダーありがとう。絶対に大切にするよ。

※上記発言の_____下線部はAさんが自分の学習カードにメモをとった箇所

【Aさんの感想】もし、こんなことがあったら（壊された立場、壊してしまった立場）どちらの立場でもあやまれる人になりたいと思った。相手のことを考えることがとても大切だと思った。

Aさんは、_____下線部の動作化を通して、誠実に謝る年夫の気持ちを知り、自分と一郎とを重ねながら（一郎の）後悔する気持ちに気付いていきました。さらに、その後の意見交流の中で、自分ごとのように謝り、お礼を言うCさんの言葉を聞いて、気持ちを素直に相手に伝えることの良さに気づき、上のような感想を書きました。動作化や対話活動は、児童に自分とのかかわりで考えることを促し、一面的な見方を多面的・多角的な見方へと発展させていきます。

3 体力の向上に向けて

動きのよさや伸びを認め、自己肯定感を高める支援を

平成 28 年度の「全国体力・運動能力，運動習慣等調査」では，新たに自己肯定感に係る質問項目が新設されました。この調査から明らかになったことは，次の 2 点です。

- ・体力が高い子どもほど，自己肯定感が強い。
 - ・全国平均と比べ，本県の子どもたちの自己肯定感に若干の弱さがある。
- (結果等の詳細については「平成 29 年『教育指導時報』5月号」pp.22-31 参照)

子どもたちの体力向上を図るために，これまでの運動の楽しさや大切さを実感できる指導や，運動の日常化・習慣化につながる取組といった工夫の視点に加え，体育の授業等を通して子どもたちの自己肯定感を高めることを新たな視点として考えていくことが必要です。

では，そのためにどのような取組が考えられるでしょうか？

F 小学校では，年間を通して朝の全校運動に「F 小サーキット」を位置付けています。校庭と周辺に約 20 種類の運動遊びの場が設定され，子どもたちは自分のやってみたい運動遊びを選びながら，夢中で取り組んでいます。



「Y さん，上手になったね！」，「H くんが蹴るボールは強いね！」，「すごい O さん！ここまで跳んだよ！」・・・いろいろな所から，子どもたちの歓声とともに，先生が子どもたちの動きを賞賛する声が聞こえてきます。こうした運動遊びを通して，学級や学年の枠を超え，子どもと子ども，子どもと先生が笑顔で結ばれていきます。

全教職員がかかわって子どもたちの体力向上を支える。そうした先生方の意識が子どもたちへの声かけに表れています。先生から動きを認めてもらえることは子どもたちの自信につながります。

全校運動や体育授業に限らず，休み時間や放課後等，子どもたちが体を動かして遊んでいる姿を見かけたら，そこで生じる子どもたちの成功や達成の喜びに共感し，声をかけましょう。そのためにも，子どもたちの運動遊びの場に足を運んで見守ったり，共に体を動かしたりする時間をつくりましょう。

N中学校では、今年度の授業改善の具体的な取組として「生徒による示範の位置付け方」を掲げました。「授業がもっとよくなる3観点」に即し、はじめに「①課題を明確にする示範」、めりはりのある展開にするための「②気づきを促し、追究を深める示範」、1時間の見とどけとして「③互いの成果を認め合う示範」を各時間のねらいに応じて検討しています。



参観したネット型の授業では、終末に一つのチームの連携のよさが示範によって紹介されました。子どもたちの目は技能の高い仲間のプレイに向きがちですが、先生は、そのプレイを支えている運動の不得手な子の動きの工夫と高まりに着目させ、価値付けていました。

子どもたちの自己肯定感を高めるために、個に応じた技能の変容や、多様な視点から互いの動きや取組のよさを見合えるようにする先生の支援が求められます。先生が子どもたちの動きのよさや伸びを積極的に認める授業では、子どもたち同士の認め合いも自然に生じます。

T小学校では、ゲーム・ボール運動の授業の終末に「今日のMVP」をチームで選ぶ時間を位置付けることにしました。子どもたちは、今日の試合をチームの課題に沿って振り返った後、課題の解決に貢献した互いのプレイや考えのよさを出し合います。

Aチームからは、この時間に初めてシュートを決めたJくんが選ばれました。Bチームの子どもたちは、コート内外から積極的に声をかけていたことを理由にRさんを選びました。



1時間の学習を振り返り、子どもたちが互いによさや伸びを認め合う活動（「承認活動」）を位置付けることは、子どもたちの自己肯定感を高めます。また、その時間の学びを実感することで、運動への愛好的な態度を養うことにもつながります。

子どもたちの自己肯定感を高め、体力の向上につなげるために、体育の授業や学校生活全般を通して、どんな工夫ができそうか各校で検討してみましょ。そして、その内容をすべての先生で共有し、全校で取り組みましょ。

4 カリキュラム・マネジメントへのはじめの一歩 ～教科の枠を越えた視点から学びをとらえる～

中1理科「身のまわりの現象」（光の反射）

反射角 β と入射角 α の大きさの関係を調べる授業。

α 30°	α 60°	α 45°	...
β 30°	β 60°	β 45°	...

板書された実験結果を見て、気付いたことを発表する場面。

ある授業で…

Aさんが小さな声で発言した。
Aさん「比例している?…」
先生「そうかなあ…」
その後、Aさんはノートに書いた“比例”という字を消してしまった…。

教科の枠を越えた問い返しがあれば…

子どもの思考が広がる働きかけに

Aさん「比例している?…」
先生「Aさんの発言にかかわって、何か気付いた人いますか?」
「比例ってどのような関係だったかな?」
Bさん「 α が2倍、3倍となると、 β も2倍、3倍となるから比例しています。」…

授業改善の視点

Aさんの発言「比例している?…」は、算数・数学で学習した内容を理科の学習にもつなげようとする見方です。

Aさんの発言を生かし、算数・数学の既習事項を全体に問い返すことで、学習した内容が他教科の学習場面でも生かされることに気付かせましょう。

また、数量関係を考察して見いだした「事実」を説明する際は、説明する対象を明らかにすることが大切です。Aさんの発言をきっかけにして、比例している対象を明らかにすることで、

「反射角の大きさは、入射角の大きさに比例する」

ことを全体で確認することができます。更に、ノートや学習カードにまとめる場を位置付けることでAさんの発言のよさを共有することができます。

教科の枠を超えて

「必要感が生まれる学習内容や素材の教材化について、教科の枠を超えた視点での校内研修を充実させ、放課後の職員室で子ども理解について高め合う環境が大切なのだと思います。そういう雰囲気のある学校は、おのずと世代間格差もなくなるのではないかと感じました。」

(第1回研究主任研修会に参加された先生の感想より)

5 研修会報告

初任研 教師力向上研修 I (6/6)

初任者同士による、学習指導にかかわる情報交換や協議を通して、今後取り組んでいく自己課題を決め出していった研修

【日々の取組からの課題の場面より】

「ねらいを達成するために子ども同士がかかわりあって活動する場で、何を話させるか何に気付かせるかの視点づくりに課題を感じている。」など

【実践の出し合いの場面より】

「学習問題を毎時間提示している。」
「学習カードを活用している。」
「グループ活動を取り入れている。」など

【自己の振り返りを通した自己課題の設定の場面より】

「分かりやすい構造的な板書と、振り返りの場面での共有を自己課題にしたい。」など

この研修で自己課題を設定し、7月の研修で各自が授業実践を発表した。

諏訪・上伊那地区 授業づくり研修会 (第1回) (6/17)

○「子どもへの対応や学級経営での悩みを語り合おう」

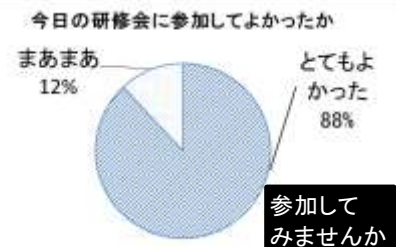
「悩みを仲間と共有することで、自分なりの解決の糸口が見えた。」
「悩みを語り合うことで、心がすっと穏やかになりました。」 など

○「明日からの授業づくりに取り組むヒントを見つけよう」

自分の一方的な授業になってしまうという悩みがあったが、今回の研修で一方的な授業になってしまった理由をはっきりさせることができた。

授業が自分の思ったように流れず悩んでいたが、それを解決するための一つの答えを見つけることができた。明日から実践したい。

注意力が不十分な子や特別支援学級の子への対応について、指導主事から助言をもらい、明日からやってみようと思うことが見つかった。



参加者の「参加してとてもよかった」との回答88%

第2回 授業づくり研修会 (臨時的任用職員研修会)

9月12日(火) 14時~16時45分 諏訪合同庁舎 ※締め切り 8月25日(金)